◎各ご家庭に配布しております。一部ずつお取り下さい。次号『まちかど』は令和７年１０月発行予定です。
「まちかど」カラー版は、品川区ホームページからご覧いただけます。https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/
裏面のQRコードよりアクセス可能です。

街角とあなたをネットする暮らしと文化の情報紙

まちかど

●荏原第一地域新聞●

第229号

令和７年（２０２５）８月発行
発行・事務局
◎荏原第一地域センター◎
小山3-14-1（〒142-0062）
TEL　３７８６－２０００
FAX　３７８６－５３８５

荏原第一地区 区民まつり

7月26日(土)、小山台小学校にて荏原第一地区の区民まつりが開催されました。午後2時の開会式では、森澤区長、河野実行委員長、小山台小学校の大沢校長が挨拶を行い、まつりがスタートしました。

校庭には模擬店が並び、かき氷や焼きそばなどを求め多くの来場者が行列を作りました。体育館では子ども向けのゲームコーナーも設けられ、元気な笑い声が響きました。夕方からは太鼓の演奏とともに盆踊りが始まり、やぐらを囲んで多くの方が踊りに参加。地域の一体感が感じられるひと時となりました。

今年の来場者数は3279人の大盛況となりました。

地域の皆様の協力のもと、安全に楽しく開催できたことに感謝し、今後もこうした交流の場を大切にしていきます。

（事務局）

区民まつり会場の様子

小山四丁目の「粋鼓囃子（すいこばやし）」

祭礼に向けてお稽古中

小山四丁目にはお祭りを盛り上げる笛と太鼓によるお囃子があります。山車（だし）の上でカッコ良く粋な姿を見せたいという願いを込めて、お囃子の会の松田部長が35年前に『粋鼓囃子』と名付けたそうです。

現在お囃子メンバーは小学生4名、中学生2名、大学生1名、大人2名と指導者2名です。更に高橋副部長、保護者等が集い、年間を通して月に2回、小山小学校音楽室にて太鼓のお稽古をやっています。

本物の太鼓は音が大きく響くので、松田部長手作りの練習用の太鼓を使っています。木枠にアクリル板を貼り、中央にゴムとフェルトを貼り付け、音が吸収され小さくなるように工夫されています。音楽室では山車の上を想定して床に座布団を敷き、足を組んで座った姿勢で太鼓の真ん中を叩きます。

お囃子には通常の音符のような楽譜がなく、独自の楽譜がありますが、とても難しいです。経験豊富な先輩が後輩に基本的なリズムをとりながら、叩き方のコツを教えて、指導者の高橋緑さんの笛に調子を合わせて叩けるように仕上げていきます。

小学生の子供たちは指導者に認められないと山車に上がれないので祭礼に向けて頑張っています。本番では、先輩と後輩全員が揃いの半纏を着て、笛と太鼓が一体となるバチさばきを目指します。

9月の祭礼ではお神輿と『粋鼓囃子』の山車の巡行が楽しみです。

（小山四丁目町会・東　美佐栄）

『粋鼓囃子』のお稽古風景

花めぐり

ノウゼンカズラ

ノウゼンカズラはノウゼンカズラ科ノウゼンカズラ属の落葉性のつる性植物です。漢字で「凌霄花」と書き、このなじみの少ない花名は平安時代に中国から渡来したと考えられています。霄(空や雲)を凌ぐほど高く伸びることから、この名がつきました。

ノウゼンカズラ
西桐ケ谷公園周辺
にて7月に撮影

高さは3メートルから6メートル位にもなり、つるで他の植物や建物の壁を這い上がるように成長します。また、この花は日当たりの良い場所と、水はけの良い土壌を好みます。花はラッパのような形で夏の暑い7月から9月に咲き、鮮やかなオレンジ色や赤い色が特徴です。然しながらこの鮮やかな花に触れると肌がハレたりすることもあるようです。花言葉は「栄光」「名誉」「名声」です。

（小山二丁目西部町会・髙橋　元嘉）

後地小グリーンボランティア

新しくなった後地小学校の校庭は人工芝ですが、本物の芝生広場や、池、流れる小川があるビオトープも作られました。新校舎での子ども達の生活が始まった頃、このビオトープにはほとんど生き物がおらず、夏には底のヘドロから少し臭いがすることもありました。

そんな状況を見かねて、立ち上がったのが後地小学校のお父さんたちによる「おやじの会」です。彼らはまるで『ドクターイエロー』のような隠れキャラ的存在で、自主的に「グリーンボランティア」を始めました。主な活動は、校庭周りやビオトープ、芝生広場の整備です。後地小学校を心から愛するメンバーの集まりだったので、一致団結してスタートしました。正直なところ、本当の目的は、活動後の「交流会」でもあったのですが・・・（笑）。

整備に関しては、みんな素人です。それでも、少しずつ後地小学校が綺麗になる様子を見て、達成感でいっぱいでした。その後、少しずつビオトープにメダカやヌマエビを放し、水生植物を増やしたり、噴水も設置したりしました。すると、池の水の中で生態系の循環がおこり、見違えるほど澄んできました。まだまだ人の手が必要な部分はありますが、確かな手ごたえを感じています。

この記事を読んで興味を持たれた方、ぜひ一度、後地小学校のビオトープを訪れてみてください。そして「私たちも一緒にやってみたい！」と思ってくださる方、大歓迎です！現役のお父さんお母さんはもちろん、OB・OGの方、後地小学校とは直接関係のない地域の方、どなたでも大歓迎です！（もちろん、活動後の「交流会」にも参加したい方も！）事前のお申し込み等は不要です。

基本的に毎月第3土曜日午前10時から、「後地おやじの会グリーンボランティア」として活動しています（雨天中止）。ご興味のある方は、当日、後地小学校正門前にお集まりください。

ご参加の際は、ボランティア登録のためにお名前と連絡先をお伺いします。

（荏原一丁目町会・おやじの会・谷中　政直）

後地小学校 ビオトープ

町会活動紹介

小山台夏まつり（どじょうつかみ大会）

7月5日（土）午後1時から小山台小学校にて小山台夏まつり（どじょうつかみ大会）が行われました。小山台1丁目東町会石津町会長の挨拶から始まり、焼け付くような炎天下の中、大勢の親子連れの参加で大変賑わいました。

3班に分かれてのどじょうつかみ大会の始まりです。1班は未就学児グループで、手をつないだ親子がどじょうの泳ぐプールに入ると、足元のどじょうに驚き、親にしがみつく幼子や、両足をかわるがわる上げては、どじょうから逃れたい幼子。そんな中、しっかり手中に取ったどじょうを我が子に見せる親。我が子のためにと凄い勢いで追う親の姿が印象的です。2班の低学年の男子は動作がとても速く捕まえるのが上手だが、女子はどじょうの速さにはスローかなぁ、という感じで中々つかめていない。3班高学年は男子も女子も必死で逃げるどじょうに負けている様子の子は少ない。すごい速さで逃げるどじょうが可哀想のように思いました。

帰路に着く3家族に「持ち帰るどじょうはどうするんですか？」と尋ねると「昨年のどじょうの家族に入れて家族にします」と答えてくれました。3家族とも同じ答えで大変うれしく思いました。

小山台一丁目東町会役員とPTAの方々の協力で小山台夏まつりが、大勢の子供たちの心に残るであろう楽しい行事になりました。

どじょうつかみ大会の様子

（小山台一丁目東町会・佐藤　年子）